



みどりの風

学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

平成29年4月10日 在籍児童数482名 4月号

自分の言葉で

校長 吉野 高男

数多くの桜の中でもソメイヨシノは、日本の子ども達の入学・進級を祝うために存在しているのでしょうか。満開の桜に囲まれて、期待に胸膨らませる篠っこの新学期が始まりました。

平成29年度の篠津小学校は、新たに74名の新1年生を迎え、総勢482名で、明るく、元気にスタートしました。始業式そして入学式では、この春新しく転入した先生方や新しい友だちと出会い、心新たに今年度も頑張ろうという引き締まった表情の中に強い意気込みを感じることができました。今年度の篠っこ達の活躍が楽しみです。

さて、春爛漫のここ数日ですが、日本の春の風物詩の一つに甲子園の春の選抜高校野球があります。その開会式の日の朝日新聞の天声人語に次のように書かれていました。「春の甲子園がきょう幕を開ける。近年は選手宣誓の言葉に工夫が凝らされ、開会式を見る楽しみが増えた。ひところの絶叫調は影をひそめた。耳になじむ柔らかな語りが最近の主流らしい。……中略……自分で選（え）りぬいた自分の言葉ならきっといつか人生の糧になる。きょうの開会式では作新学院（栃木県）の選手が宣誓の大役をになう。若者らしい希望の言葉を甲子園の空に響かせてほしい。」

中略部分では、東日本大震災直後の大会の宣誓の内容に触れて、その宣誓を行った選手が大学を卒業し就職するにあたっての心境を述べていました。その若者の思いも胸を打つものですが、私は、「自分で選（え）りぬいた自分の言葉ならきっといつか人生の糧になる」という所に強く惹かれました。

本校は昨年度から、次の学習指導要領で新たに示された「主体的・対話的で深い学び」に迫るための授業改善を研究しています。子ども達が対話を通して協働的に学ぶ上で、子どもが自身の言葉で語れるようにするためには様々な工夫が必要です。しかしながら、「自分で選りぬいた言葉」で友達に説明できるようになると、それは本当に身に付いた学力になるのです。そして、そういう経験の積み重ねがまさに「人生の糧になる」と同時に、子ども達の「生きる力」の根幹になると考えられます。

作新学院の添田主将は宣誓の結びで、「…先輩方が築いてくれたこの素晴らしい大会を私たちが継承し、人としての力を高めていく大会にすることを誓います。」と爽やかに締めくくりました。実に説得力のある言葉です。子どもや若者達の営みの全ては「人としての力を高める」ためにあるのだと強く感じ入りました。私たち大人が、子どもや若者を全力でサポートしていくことは、大人としての責務であるとも改めて痛感した次第です。

本年度も、全職員が力を合わせて、日々の教育活動に全力で取り組んでまいりたいと存じます。保護者の皆様、地域の皆様には、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。